

日本MFCAフォーラム共催セミナー

儲ける省エネ省資源戦略実践セミナー

- 化学・医薬・半導体・成形・加工等の加工型モノづくりでは、省エネ省資源が、事業部と同等の利益を生み出す活動になる可能性があります。
- 本セミナーは、その実践の考え方、導入・展開のステップと手法を紹介します。

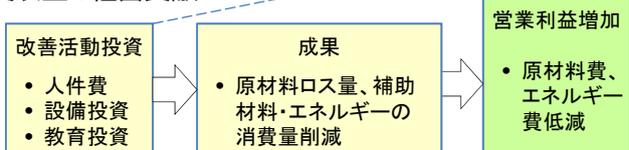
「狙い：実現したいこと」



② プロセス横串部門連携改善横展の戦略実践

	事業所と生産特性						ロス特性と改善の展開戦略				
	工場A	工場B	工場C	工場D	工場E	工場F	工場G	管理	容認	盲点	無管理
機械加工	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
鑄造	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
鍛造	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
板金プレス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
塗装	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

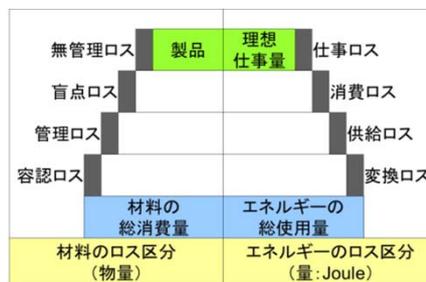
③ 投資に見合った成果
投資以上の経営貢献



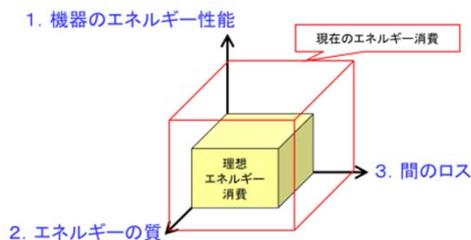
本セミナーでは、省エネ省資源の取り組みを、経営貢献に値する改善活動にイノベーションするための基本的な考え方、方法を、学んでいただきます。

「習得すべき省エネ省資源基本着眼 11's」

- マテリアル・エネルギー 8つのロス



- 省エネルギー 3つの着眼



これらの着眼は、日本MFCAフォーラムで議論されたものをベースに、FMICによって開発されました。

MFCA (Material Flow Cost Accounting)は、2011年にISO14051として公布され、その次のISO14052が審議中(DIS)となっています。

セミナープログラム (半日：公開、13時～17時)

1. 講義：儲かる省エネ省資源へのMFCA基礎と応用
2. 事例・演習：省エネ省資源の経営貢献可能性診断
3. 講義：見える化tool活用法、Eco Track紹介(富士通様より)
4. 紹介・演習：プロセス俯瞰の省エネ省資源横展戦略
5. 講義：活動展開戦略作りの考え方

講師 FMIC チーフコンサルタント 下垣彰

セミナーへの参加をお奨めする人

- 経営に貢献する環境活動への改革を志す方
- 儲ける改善活動への改革を志す方

参加費用 (教材費含む、消費税別)

- 一般：2万円/1人
- 日本MFCAフォーラム会員：1万円/1人

お問合せ・お申込み **FMIC：03-3459-8178**

(株)フューチャーマネジメントアンドイノベーションコンサルティング
〒105-0001東京都港区虎ノ門4-2-12 虎ノ門4丁目MTビル2号館
TEL (03)3459-8178 FAX (03)3459-8179
URL : <http://www.fmic.jp/> E-mail : info@fmic.jp 担当：浅野

公開セミナー開催予定 (第1回)

2016年4月22日 東京 (FMIC会議室)
定員 12名

儲ける省エネ省資源戦略実践セミナー

◆お役立ち：見えないロス×次世代商品×改革人材

GP環境戦略は、下記のような業種、プロセス分野で効果を発揮しています



◆FMIC未来革新ワークショップ2014参加者の声 「やっている」ではなく「やるべきことに挑戦する」へ

- ◆俯瞰思考を通じて組織的な改革に発展
 - ・未来思考と俯瞰思考での視点で「やれる」ではなく「やるべき」課題がわかった
 - ・資源効率向上や事業改革にどのように取り組めばよいか分かった
 - ◆知識や情報共有ではなく「共振できた」
 - ・今までは悩みを共有レベルだったが、課題突破のヒントが見つかった
 - ・今までは知識レベルだったが、改善実践シナリオできて良かった
 - ◆未来の問題に気がついた
 - ・現状の問題ばかり見ていたが、見えていなかった未来のロスが見えたことに驚いた
 - ・限界までできていると思っていた材料歩留が、まだ改善余地があることに驚いた
 - ◆動機付け、意識づけができた
 - ・省エネをどの様に意識づけたらよいか悩んでいたが、進むべき方向ときっかけができた
 - ・環境イノベーションと事業化への取り組みを推進させる動機づけができた
- 等

参加のおすすめ



FMIC代表取締役CEO 大岩和男

未来革新ワークショップは、企業や組織の未来開発力と人材育成を加速させたいと願う人々の知と工夫が結集されたものです。未来革新ワークショップへの皆様の参加をお待ちしております。



日本MFCAフォーラム事務局長 立川 博巳

環境経営は長く叫ばれてきていますが、その実践力や事業イノベーションへの展開は不十分です。「儲ける省エネ省資源にするためのMFCAセミナー」に参加していただき、MFCAを活かした省エネ省資源の実践法を研究、実践し、自社の競争力向上、及び地球や企業の未来に貢献していきましょう。